

世界 LNG 動向#111 2025 年 3 月

橋本裕*

はじめに

日本は、2025 年 1-2 月、1252 万トンの LNG を輸入し、前年同期比 3.15%増となった。同期間の中国の LNG 輸入は、前年同期比 19.1%減の 1060 万トンに留まった。同じ 2025 年 1-2 月に中国はパイプラインガスで前年同期比 9.1%増の 971 万トンを入力したが、合計した天然ガス輸入量としては前年同期比 7.7%減の 2031 万トンとなった。1-2 月の日本、韓国、中国、台湾の北東アジア 4 大 LNG 市場の総 LNG 輸入量は 3417 万トンと、前年同期比 8.57%少なかった。

米国エネルギー省 (DOE) は、新規 LNG プロジェクトに関して、2 月 14 日、3 月 19 日に 1 件ずつ非 FTA 国 (日本を含む米国と自由貿易協定を締結していない国) 向け LNG 輸出に条件付承認を行った。数ヶ月後に FERC (連邦エネルギー規制委員会) による建設許可を待って最終承認とする見込み。さらに既許可済み・未完成案件の当初の輸出許可期日から輸出開始までの許可期間延長を、建設中の 1 件および計画中の 1 件に許可した。

また昨年 8 月、2 件の LNG 輸出設備に対する FERC による建設・操業の承認を取り消すとの判断を下した連邦控訴審が、プロジェクト側の再審理請求を経て、3 月 18 日に判断を覆し、当初の FERC 許可の有効性を再確認した。

また豪州 Woodside 社が買い取ったルイジアナ州の大型プロジェクトも、エンジニアリング面・パートナー交渉面で前進を明らかにしている。これら米国のガルフ地域からの将来の LNG 輸出プロジェクト進展に関して前進の徴候が示されるとともに、建設完了目前の 2 プロジェクトも順調にオペレーションを立ち上げつつある。カナダ西海岸では最初の LNG 輸出プロジェクトがまもなく設備クールダウン・コミッショニング作業を開始する見通しである。

アラスカ州 Alaska LNG プロジェクトでは、3 月 20 日に台湾中油会社が、同州ガスライン開発公社 AGDC との間で、LOI (覚書) を締結した。続いて Glenfarne 社が同プロジェクトのマジョリティオーナーとなる契約が締結された。同プロジェクトは先ず州内長距離パイプラインインフラストラクチャ開発・州内市場向け天然ガス供給を優先するものとしている。引き続きアジア LNG 買主・潜在開発参加企業に向けた売り込みが予想されるが、巨額と見込まれる初期コスト、極北地での厳しい建設環境等のプロジェクト運営をどう管理していくか、プロジェクト参加・LNG 引き取りの諸条件、米・日当局の支援体制が、どう説明され、実施されていくか、注目される。

* 資源・燃料・エネルギー安全保障ユニット

[アジア太平洋]

東京ガス株式会社は、2025 年 3 月 27 日、袖ヶ浦 LNG 基地内に建設した袖ヶ浦発電所 97.8 MW の竣工式を執り行ったことを発表した。

中国国家统计局によると、同国の天然ガスの生産量は 1 - 2 月分で前年同期比 3.7%増の 433 億 m³だった。中国 NDRC (国家发展和改革委员会) によると、2025 年 1 - 2 月の同国の天然ガス消費は 699.4 億 m³ と前年同期比 3.4%減であった。

豪 Woodside Energy 社は、2025 年 3 月 17 日、China Resources Gas International Limited (华润燃气控股有限公司) との間で中国向け LNG 供給に関わる長期 SPA (売買契約) を締結したことを発表した。当該 SPA は、年間 60 万トン、15 年間、DES (持ち届け) 条件で 2027 年開始としている。Woodside にとり 2024 年初以降締結したアジア向け 4 件目の長期 LNG 販売である。Woodside にとり中国の買主と長期販売契約を単独で締結した初めての事例となる。

中国の NDRC (国家发展改革委)、NEA (国家能源局) は、2025 年 2 月 28 日、天然ガス・石油インフラストラクチャ規則案を公表、パブリックコメントを募集した。その第 25 条は次の通り。ガス供給企業は、年間ガス供給の 5%以上の貯蔵を確保しなくてはならない。石油・天然ガス幹線パイプラインの建設を担当する企業は、国内ガス供給企業の年間ガス供給の 5%以上のガス貯蔵容量を確保しなくてはならない。全省 (自治地域、地方体) は、個別行政単位の前年の平均日量ガス消費 5 日分以上の緊急予備容量を確保するため、地域レベルで地元人民政府と調整する。都市ガス企業には年間ガス消費の 5%以上のガス貯蔵容量確保を指導する」。

株式会社 IHI は、2025 年 3 月 17 日、株式会社 IHI プラントが台湾 CTCI Corporation (中鼎工程股份有限公司) と共同で、CPC (台湾中油股份有限公司) から、同社が台湾南部の高雄市で計画している洲際 LNG 受入・貯蔵基地の地上式 LNG 貯蔵タンク 4 基の EPC (設計・調達・建設) 業務を受注したことを発表した。貯蔵容量は 1 基当たり 18 万 kl、2030 年後半の完成を予定している。本プロジェクトは、CPC の「高雄港洲際コンテナターミナル第 2 期大林石化製品貯蔵運搬センター投資計画」の重要なプロジェクトの 1 つ。

トレーディング企業 Vitol 社は、2025 年 3 月 4 日、フィリピン LNGPH および South Premiere Power 社 (SPPC) ・ Excellent Energy Resources 社 (EERI) の LNG 発電設備と、LNG SPA (売買契約) を締結したことを発表した。Vitol 社は最大年間 80 万トンの LNG を 2025 年から 10 年間供給する。この LNG は、バタンガスの LNGPH 基地に引き渡されることとなる。

Excelerate Energy 社は、2025 年 3 月 14 日、ベトナム Petrovietnam Gas (PV Gas) 社と早ければ 2026 年の米国からの LNG 調達で協力すべく MoU (覚書) を締結したことを発表した。両社は PV Gas の LNG 供給需要を精査し、両社が LNG 調達を実施する戦略的枠組を定義する。

ベトナム社会主義共和国産業・通商省は、2025 年 3 月 14 日、PetroVietnam Gas (PVGas)

社が、ConocoPhillips 社、Excelerate Energy 社との間で、長期 LNG 買売契約に関する MOU (覚書) を締結したことを発表した。

ベトナム PetroVietnam Gas (PVGas) 社は、2025 年 3 月 26 日、マレーシア PETRONAS 社と PV GAS の間で協力可能性に関して話し合った、と述べた。

シンガポール Sembcorp Industries 社は、2025 年 3 月 13 日、子会社 Sembcorp Gas 社が、West Natuna Exploration 社・Empyrean Energy 社・Coro Energy Duyung (Singapore) 社と締結しているガス売買契約 (GSA) の最新状況を報告した。この GSA は、規制機関承認が前提条件となっていた。インドネシアでの規制承認が得られていないことから、GSA は解消となる。

Shell 社は、2025 年 4 月 1 日、Shell Eastern Trading 社が既に発表していた Pavilion Energy 社株式の 100%買収を完了したことを発表した。Pavilion Energy は、グローバル LNG トレーディングビジネスを実施しており、契約供給量は、年間 650 万トン有する。今回の買収は Pavilion Energy の LNG 引き取り・供給契約、気化容量のポートフォリオ、LNG バンカリングビジネスを含む。2024 年 6 月 18 日、Shell は Pavilion Energy を Temasek の間接完全所有子会社 Carne Investments 社から買収する契約締結を発表した。Pavilion Energy のポートフォリオは年間 650 万トン分の長期販売・供給 LNG 契約で構成される。Isle Grain LNG 基地 (英国) での年間 200 万トンの長期気化容量、シンガポール・スペインでの気化へのアクセス、M タイプ・MEGI 電子制御式ガス注入型ディーゼル (MEGI) LNG 輸送船舶 3 隻、三元燃料ディーゼル機関電気推進方式 (TFDE) 船舶 2 隻も含む。LNG バンカリングビジネスも有し、最初の船舶は 2024 年初配備された。Pavilion Energy のシンガポールでのパイプラインガスビジネスはこの取引に含まれず、Temasek 完全子会社 Gas Supply 社 (GSPL) に移管された。Pavilion Energy のタンザニア第 1 鉱区、第 4 鉱区における 20%持分はこの取引に含まれていない。Shell は、BG 買収を通じてシンガポール最初の LNG 輸入ライセンスを持ち、同国天然ガス需要の 4 分の 1 近くを供給している。

タイのドライバルク海運企業 Precious Shipping 社は、2025 年 3 月 21 日付タイ証券取引 (SET) への報告書類にて、Precious Shipping (Singapore) 社 (PSSP) が、マレーシアで Emstraits Navigation 社 (ENSB)、Lianson Fleet 社 (LFG) と合弁企業契約を締結したことを明らかにした。Nusantara Maritime 合弁事業は、LNG、LPG、原油タンカー部門で、船舶の所有、運航、備船貸し出し、海洋関係業務を行うこととなる。

豪 Viva Energy 社は、2025 年 3 月 31 日、LNG コンサルタント企業 Poten & Partners に Geelong に計画する LNG 基地向けの FSRU (浮体貯蔵・気化設備) 1 隻の確保に向け支援を委託したことを発表した。この新基地は、LNG 160,000 m³ - 180,000 m³ 容量の船舶を必要とする。Viva Energy は、Geelong の自社石油精製設備隣接の LNG 基地建設計画に関して規制承認を待っている。ビクトリア州政府からの環境影響評価書は 2025 年 4 月に見込まれ、Viva Energy は 2025 年末までに FID (最終投資決定) を見込んでいる。承認されれば、同基地は 2028 年稼働開始予定である。

Shell Australia 社は、2025 年 3 月 5 日、西オーストラリア州沖 Crux ガス田での設置・コミッショニング活動に向けて、連邦海洋石油類安全・環境規制機関 NOPSEMA より、環境対応計画について承認を受けた。同プロジェクトは、Prelude FLNG (浮体 LNG 液化設備) 向けバックフィルガス供給源とみなされている。

[北米]

米商工会議所は、2025 年 3 月 6 日、米国 LNG 輸出の大きな経済上・環境上の利益を実証するスタディを S&P Global が公表したことを発表した。北東部諸州に供給する天然ガスパイプライン建設の巨大な利益も示している。このフェーズ 2 スタディは、北東部諸州に供給する天然ガスパイプライン不足の経済的な損失に脚光を浴びせている。Marcellus 地域からニューヨーク、ニューイングランドにパイプライン容量を拡張することで、天然ガス価格をボストンで 27%、ニューヨークで 17%下げるとしている。このスタディは、米国産 LNG 輸出が世界の温室効果ガス排出を削減する上で役立つとしている。検討中の LNG プロジェクトが停止されれば、喪失される数量の 85%は石炭、石油、ロシア・アルジェリアからのパイプラインガス等のより排出量の大きな代替供給で代替されることとなるとした。これらプロジェクトの推進で 2040 年までに最大 7.80 億トンの温室効果ガス排出が回避されるとしている。

EPA(米連邦環境保護庁) は、2025 年 3 月 12 日、規制緩和項目 31 件を発表した。温室効果ガス報告プログラム (GHG 報告プログラム) 見直し、石油・ガス開発の排水規制見直しが含まれる。

米連邦準備銀行 Federal Reserve Bank of Dallas (Dallas Fed) は、2025 年 3 月 26 日、Dallas Fed Energy Survey 最新版を公表した。同調査に回答した石油・ガス企業幹部によると、石油・ガス部門の 2025 年第 1 四半期の活動は僅かに増加した。データは 3 月 12 日から 20 日に収集され、エネルギー企業 130 社が回答した。回答社中、88 社は開発・生産企業、42 社は油田サービス企業だった。企業の見通しは、若干のペシミズムが示唆され、不確実感は増加した。サービス企業の 1 社は「政権の国内石油・ガス生産の増加期待と奇妙なズレがあり、鉄鋼関税引き上げにより、生産井仕上げコストが増加し、生産井仕上げは減少する可能性が高い」とコメントした。

FERC(米連邦エネルギー規制委員会) は、2025 年 3 月 10 日、Corpus Christi LNG にてその拡張プロジェクトに 2 本のミッドスケール系列を加える拡張を承認した。最初の 7 系列が建設中である。

Cheniere Energy 社は、2025 年 3 月 17 日、Corpus Christi ステージ 3 液化プロジェクト (CCL Stage 3) 第 1 系列実質完成が同 16 日に実現したことを発表した。コミッショニング (試運転) が完了し、EPC (エンジニアリング・調達・建設) パートナー Bechtel Energy 社は、同系列の監督・運転・制御、関連システムを Cheniere に引き渡した。CCL Stage 3 推進通知は 2022 年 6 月、Bechtel 向けに Cheniere から出され、第 1 系列からの LNG 生

産は 2024 年 12 月、初カーゴ積み込みは 2025 年 2 月に実現した。CCL Stage 3 は 7 本のミッドスケール系列で構成、見込まれる合計生産容量は年間 1000 万トンを超える。全 7 系列実質完成とともに、Corpus Christi 液化設備合計生産容量は年間 2500 万トンを超える見込み。

Sempra 社は、2025 年 3 月 31 日、自社テキサス州・カリフォルニア州のユーティリティ事業の強力な成長を支えるため、自社ポートフォリオのシンプル化、資本のリサイクルのコミットメントを進める戦略的措置を発表した。メキシコの一部エネルギーインフラストラクチャ資産、Sempra Infrastructure Partners におけるマイノリティ持分を売却する意図である。売却収入は、米国ユーティリティに焦点を置く 5 年間の資本投入に再活用される見込み。Sempra Infrastructure は、メキシコのメヒカリ、チワワ、ラ・ラグナ・デュランゴ地方の 3 ユーティリティフランチャイズを持ち天然ガス配給業務を提供する Ecogas México 社の売却を目指す。Ecogas はメキシコ第 5 位規模の配給網を持ち、600,000 件以上の家庭用、商業用、工業用消費者に天然ガスを供給する 5,000 km 以上の配給パイプラインを有する。Sempra Infrastructure のマイノリティ持分の売却プロセスも開始している。2021 年に 20%非支配持分を Kohlberg Kravis Roberts & Co. L.P.に、2022 年同 10%を Abu Dhabi Investment Authority に売却したことに続く。それ以降、Sempra Infrastructure は LNG 事業基盤を拡大して市場での価値を高めてきた。Energía Costa Azul LNG フェーズ 1 は引き続き 2026 年春を商業運転開始目標としており、Port Arthur LNG フェーズ 1 建設は引き続き予定通り予算内で第 1 系列は 2027 年、第 2 系列は 2028 年稼働開始見込みである。Port Arthur LNG フェーズ 2 も続けている。同開発参加に関して、Sempra Infrastructure は世界クラスの企業とコマーシャルレベルの話し合いを続けており、Saudi Aramco 子会社との LNG 引き取り・出資参加についての非拘束 HOA(基本合意)、Bechtel Energy と固定価格の EPC(エンジニアリング・調達・建設) 契約を裏付けとして確保している。Sempra Infrastructure は、確定的なコマーシャル契約締結、諸承認の確保、資金調達の確保等を条件として、FID(最終投資決定)を 2025 年目標としている。これらの取り組みは、(1) ノンコア資産を売却しその収入をテキサス州・カリフォルニア州ユーティリティ事業への新規投資に再投資する、(2) バランスシートを強化し、成長に向け効率的に資金を活かし、提供サービスの質・アフターダビリティを改善する、(3) 利益・キャッシュフローの一貫した成長・長期バリュー創出への見通し改善を Sempra の所有者(株主)に提供するべく取り組まれている。今回発表中の売却取引は、今後 12 - 18 ヶ月間で完了見込みとなる。

DOE(米連邦エネルギー省)は、2025 年 3 月 5 日、Golden Pass LNG Terminal 社に LNG 輸出許可承認延長を承認した。テキサス州で建設中の Golden Pass LNG 設備の LNG 輸出開始までの期間に延長を認める。

Venture Global Calcasieu Pass 社は、2025 年 3 月 25 日、同プロジェクトの残り設備、電力集約システム、前処理設備、LNG 貯蔵、BOG(ボイルオフガス)、海洋設備について、稼働開始することを FERC(米連邦エネルギー規制委員会)に承認を申請した。

Venture Global 社は、2025 年 3 月 6 日、ルイジアナ州 Plaquemines LNG 設備のブラウソフィールド拡張計画を発表した。この拡張計画は、24 系列で、容量を年間 1800 万トン加え、累計 4500 万トン超とする。

Venture Global 社は、2025 年 3 月 6 日、2024 年 12 月までの四半期・通年業績を報告した。Venture Global は CP2 の FID (最終投資決定) プロセスを開始しているという。

DOE (米連邦エネルギー省)、Venture Global は、2025 年 3 月 19 日、Venture Global 社が DOE より、ルイジアナ州キャメロン郡 CP2 LNG プロジェクトから非 FTA 諸国への LNG 輸出承認を受けたことを発表した。DOE は今回の承認を、CP2 に非 FTA 諸国への LNG 輸出を条件付きで承認した、と述べた。DOE は数ヶ月後に最終指令を発行する見通し。

NextDecade 社、Baker Hughes 社は、2025 年 3 月 11 日、NextDecade が Rio Grande LNG 設備第 4 - 8 系列について、Baker Hughes のガスタービン、冷媒圧縮 (機器パッケージ) を活用し、これら機器パッケージのメンテナンス作業を担当する委託業務契約に入ることを計画する枠組契約を締結したことを発表した。NextDecade は、第 4、5 系列・関連インフラストラクチャについて、必要な政府承認を維持すること、EPC 契約を固めて締結すること、適切なコマーシャル手配を整えること、各系列・関連インフラストラクチャ建設に必要な資金調達を獲得することを条件に、FID (最終投資決定) を行い建設開始することを見込んでいる。NextDecade は第 6 - 8 系列の承認手続きを開始している。これらは NextDecade により全て所有され、同社液化容量を年間 1800 万トン増加する見込み。

米連邦コロンビア特別区控訴審は、2025 年 3 月 18 日、FERC (連邦エネルギー規制委員会) による Rio Grande LNG ・ Texas LNG 両輸出プロジェクト建設・操業の承認の有効性を再確認した。2024 年 8 月の同法廷による承認取り消し判断について、プロジェクト側の再審理請求に応じて、取り消した。同法廷は両件を FERC に差し戻し、FERC は同法廷による追加環境影響評価の指令を再検討するかもしれないし、しないかもしれない。NextDecade は、「今回の法廷判断修正には満足しており、Rio Grande LNG 設備の建設は同法廷により影響を受けることはない」と述べた。

FERC (連邦エネルギー規制委員会) は、2025 年 3 月 28 日、Rio Grande LNG ・ Rio Bravo パイプライン (Rio Grande LNG プロジェクト) への同委員会の環境審査についてコロンビア特別区連邦控訴審が発行した 2024 年 8 月 6 日の意見に対応する追加環境影響評価 (EIS) 案を、FERC 事務局が用意したことを発表した。同法廷は、同プロジェクトを承認した 2023 年 4 月 2 日付同委員会指令を差し戻した。FERC 事務局は、引き続き、環境上の公正性に関するコミュニティに対する同プロジェクトの影響は不均衡で悪影響があると判断している。しかし FERC 事務局は、引き続き、同委員会による同プロジェクトの従来承認において設定した環境上の諸条件の実施、今回の追加 EIS 案で提言している追加緩和対策の実施により、これらプロジェクトの承認は重大な影響をもたらすものではないと結論している。今回の追加 EIS 案に対するコメント期間は、東部時間で 2025 年 5 月 19 日 5:00 pm が期限となる。

FERC (米連邦エネルギー規制委員会) は、2025 年 3 月 14 日、Louisiana LNG Infrastructure 社に対して、プラントのバッテリー対応可能な部分より外側の部分の電気接地ケーブルと防火以外の用水地下配管についての作業を許可する指令書簡を発行した。

FERC (連邦エネルギー規制委員会) は、2025 年 3 月 28 日、Texas LNG プロジェクトへの同委員会の環境審査についてコロンビア特別区連邦控訴審が発行した 2024 年 8 月 6 日の意見に対応する追加環境影響評価 (EIS) 案を、FERC 事務局が用意したことを発表した。FERC 事務局は、引き続き、環境上の公正性に関するコミュニティに対する同プロジェクトの影響は不均衡で悪影響があると判断している。しかし FERC 事務局は、引き続き、同委員会による同プロジェクトの従来承認において設定した環境上の諸条件の実施、今回の追加 EIS 案で提言している追加緩和対策の実施により、これらプロジェクトの承認は重大な影響をもたらすものではないと結論している。今回の追加 EIS 案に対するコメント期間は、東部時間で 2025 年 5 月 19 日 5:00 pm が期限となる。

DOE (米連邦エネルギー省) は、2025 年 3 月 10 日、Delfin LNG LLC に対する LNG 輸出許可延長を認めた。新政権による DOE からの LNG 関連承認として 4 件目となる。Commonwealth LNG 向け 2 月 14 日の輸出承認、バンカリング燃料としての LNG 利用制限への障壁を取り除く 2 月 28 日の再審査指令、Golden Pass LNG 設備に輸出開始までの期間延長を認める 3 月 5 日の承認に続くもの。Delfin は Fairwood Peninsula, Talisman Global Alternative Master, L.P., Talisman Global Capital Master, L.P. に多数株式を所有され、2025 年中に FID に達し、FLNGV (浮体液化船舶) 建造開始することを目指している。今回の指令は、Delfin 輸出承認の輸出開始日程を 2029 年 6 月 1 日まで延長する。

米連邦海事局は、2025 年 3 月 21 日、Delfin LNG 社に、LNG 輸出のため沖合港湾設備を所有、建設、操業、最終的には廃止することを承認するライセンスを発行した。同社沖合港湾設備はルイジアナ州キャメロン郡沖連邦管轄水域から LNG を出荷する。

ドイツ SEFE Securing Energy for Europe 社、米 Delfin Midstream 社は、2025 年 3 月 25 日、年間 150 万トン・15 年間以上・FOB (本船積み地渡し) 条件での LNG 長期供給に関する HOA (基本合意) を締結したことを発表した。この LNG は Delfin が湾岸ルイジアナ州キャメロン郡沖に配置する FLNG (浮体 LNG 液化) 船舶より調達されることとなる。Delfin が開発しているブラウンフィールドでの大水深港湾には、FLNG 船舶 3 隻、最大年間 1300 万トンの LNG 生産に対応するための追加インフラストラクチャが必要となる。

DOE (米連邦エネルギー省) は、2025 年 2 月 28 日、船舶燃料としての LNG 利用の障壁を除外する指令を発表した。JAX LNG 向けに前政権下で発行された海洋船舶燃料利用、LNG バンカリングに対する新たな監督権を規定した指令を修正する。再審理に関する指令を発行することで、DOE は 2024 年に発行された指令を修正する。米国内港湾、米国領海、国際公海上での海洋燃料としての LNG の船舶間 (STS) 移送に関して、連邦天然ガス法 (NGA) 下での管轄権行使を撤回する。今後も輸出として検討対象となるバンカリング活動は、米産 LNG を外国港湾含む外国の領海に位置する船舶に向けて STS 移送する場合であ

る。DOE は、JAX の ISO コンテナでの LNG 輸出承認について変更を行わない。

金融系ソフトウェア・市場インフラストラクチャ企業 Abaxx Technologies 社は、2025 年 3 月 24 日、Abaxx LNG 先物を指標として、LNG カーゴ 1 件についての最初の店頭 (OTC) 取引を発表した。アジアに本拠を置く 2 社が、メキシコ湾 (GOM) から輸出予定の LNG カーゴ 1 件を Abaxx GOM LNG 先物指標連動の価格での取引に合意した。

Williams 社は、2025 年 3 月 12 日、電力需要が大きなデータセンターが既に送電網の緊張を招いているが、急増する需要は豊富な天然ガスにより対応可能、と述べた。同社はデータセンターからの電力負荷は 2030 年までに 3 倍増する、と述べた。同社によると、豊富な天然ガス供給源、増加する需要に関わらず、インフラストラクチャ制約が脱炭素化の取り組みを阻害している。同社によると、過去 10 年間米国で天然ガス需要は 43%増加したが、州際輸送容量は 25%、天然ガス貯蔵の払い出し能力は 2%しか増加していない。同社によると、これが地点間の大きな価格差として表現されている。同社によると、国内・世界の需要に効果的に対応するため、明瞭な手続きと権限を合理化・明確化する許認可改革が必要である。

サリバン上院議員 (R アラスカ州) は、トランプ大統領が議会演説で Alaska LNG プロジェクトを政権の最優先事項のひとつとして支持したことを賞讃した。最近同上院議員は大統領とお話しし、"America's Gasline" という包括的文書を手交している。「わが政権は、アラスカ州の世界レベルで超巨大な天然ガスパイプラインに関して検討している。日本、韓国その他がいずれも数兆米ドルの投資をもってパートナーとなることを希望している」と大統領は述べた。サリバン議員は「すぐにできるものではないが、大統領と政権が全面支援に回ったことが実に素晴らしい」と述べた。

アラスカ州知事は、2025 年 3 月 14 日、LNG 輸出は 2030 - 2031 年開始できる可能性があり、台湾、韓国、日本、タイの潜在買主と話をしている、と述べた。

台湾經濟部は、2025 年 3 月 20 日、台湾中油公司 (CPC) が、米アラスカ州 Alaska Gasline Development Corporation (AGDC) との間で、LNG 購入、Alaska LNG プロジェクトへの投資に向けた LOI (覚書) を締結したことを発表した。

Glenfarne 社、アラスカ州公社 Alaska Gasline Development Corporation (AGDC) は、2025 年 3 月 27 日、Glenfarne Alaska LNG 社・AGDC が、Glenfarne が Alaska LNG プロジェクトのマジョリティオーナーとなり、プロジェクト全体の建設・操業に向けた開発を主導する諸契約を締結したことを発表した。Alaska LNG は、North Slope 天然ガスを、アラスカ州市民・アラスカ州のユーティリティ企業に供給し、最大年間 2000 万トンの LNG を輸出するべく構想されている。AGDC は、Alaska LNG プロジェクト資産全体を所有し運営するべく創設された AGDC 子会社 8 Star Alaska の 75%を Glenfarne に譲渡する。Glenfarne は Alaska LNG の主開発者の役割を担い、Alaska LNG の開発に関わる残りの業務に関して、FEED (基本設計) から FID (最終投資決定) に至るまで推進する。AGDC は 8 Star Alaska の残り 25%所有者として残る。Alaska LNG は 3 つのサブプロジェクトであり、(1) 全長 807 マイル・42 インチ径パイプライン、(2) ニキスキでの LNG 輸出設備、

(3) North Slope における年間 700 万トンの二酸化炭素を除去・貯蔵する CCS (炭素回収) 設備となる。Cook Inlet での天然ガス生産の減少に伴い、プロジェクトフェーズ (1) は直ちに着手し、速やかに North Slope ガスをアラスカ州市場にもたらすため必要なパイプラインインフラストラクチャ開発・FID を優先するものとする。FID 後もアラスカ州政府は 8 Star Alaska における 25%株式を維持し、8 Star Alaska サブプロジェクト 3 件のいずれにおいても、あるいは全部について最大 25%を投資するオプション権を有する。

2025 年 3 月 28 日、経済産業大臣は、米国アラスカ州知事と会談を行い、経済・エネルギー分野について意見交換を行った。

アラスカ州知事は、2025 年 3 月 27 日の発表の中で「North Slope は天然ガス確認埋蔵量 35 tcf、潜在鉱床としてさらに 200 tcf を有する。これら鉱床へのパイプラインアクセスにより日本には信頼できる、アフォーダブルで戦略的重要性高いエネルギー源が提供されるとともに、米国のエネルギーセキュリティ、米日関係を強化する」と指摘した。

APA 社、Armstrong 社傘下 Lagniappe Alaska 社、豪 Santos 社子会社 Oil Search (Alaska) 社は、2025 年 3 月 17 日、米アラスカ州 North Slope 地域における Sockeye-2 探査井の初期的な結果を公表した。APA 社は 50%、オペレーター Lagniappe 社、パートナー Santos 社は各 25%を所有している。

ARC Resources 社は、2025 年 3 月 11 日、ExxonMobil LNG Asia Pacific 社との長期 SPA (売買契約) を締結したことを発表した。EMLAP は ARC の Cedar LNG プロジェクトにおける引き取り量全量、年間 150 万トンを超えて国際 LNG 価格方式で購入する。この契約は 2028 年末に見込まれる Cedar LNG 設備商業稼働開始とともに開始し、ARC の Cedar LNG Partners 社との液化手数料型契約期間中続く。

カナダ Cedar LNG 社は、2025 年 3 月 21 日、エネルギー・天然資源相が Cedar LNG プロジェクト向けに、最大 2 億カナダドルの戦略・革新ファンド (SIF) に基づく拠出契約を発表した。Cedar LNG は 2024 年 6 月、FID (最終投資決定) を行い、カナダ初の住民マジョリティ所有の LNG 設備が現実化している。FID 以降、海洋基地・パイプライン敷設権用地の承認手続きが開始され、完了に近付いている。海洋基地・パイプライン建設は 2025 年第 2 四半期開始、ピーク建設は 2026 年と見込まれる。FLNG (浮体 LNG 生産船舶) 開発は韓国で進行中である。同プロジェクト稼働開始は 2028 年末と見込まれている。

[中東]

サウディアラビア Aramco 社は、2025 年 3 月 4 日、2030 年までに、商業上の実現可能な長期引き取りのプロジェクトが利用できることを条件に、ブルーアンモニア最大年間 250 万トンの生産を目標とする、と述べた。従来の年間 1100 万トンから下方修正となる。2024 年 3 月、Aramco 社は MidOcean Holdings II 社における戦略的少数持分の買い取りを完了し、世界 LNG 市場に参入した。続いて MidOcean 社に追加投資を行い、これには MidOcean Energy によるペルー Peru LNG における追加持分の買い取り資金も含

まれた。このパートナーシップは Aramco 社初の LNG 国際投資である。

[アフリカ]

Eni 社、Vitol 社は、2025 年 3 月 19 日、Vitol がコートディヴォワール、コンゴ共和国にて Eni が所有する一部資産を買い取ることを発表した。Vitol はコンゴ共和国の Congo LNG プロジェクトについて 25%を取得する。Eni は 65%所有している。Congo LNG プロジェクトは 2024 年 2 月に LNG 輸出を開始した。Congo LNG は年間 1 BCM の LNG を生産しており、2025 年末開始予定の第 2 段階にて、コンゴ共和国のガス輸出は年間 4.5 BCM に増加するとのこと。

コモディティトレーダー企業 Vitol 社は、2025 年 3 月 24 日、2024 年の取扱量を発表した。LNG 数量は 10%増加の石油換算 1940 万トン相当 (LNG として 1500 万トン)とした。2024 年に Vitol は米国で埋立地からメタンを回収してガス網に注入する Biomethane Partners 社を買収した。Vitol は最近 Eni と西アフリカ沖の生産資産に投資することに合意した。これにより Vitol の総生産量は石油換算日量 110,000 バレル相当に増加する。これには同社エクイティ分の LNG 100 万トンが含まれる。

米 EXIM (米輸出入銀行) は、2025 年 3 月 19 日、同 13 日の理事会にて、モザンビーク Mozambique LNG プロジェクト開発・建設への米国産資機材・サービス輸出支援のための最大 47 億米ドル 2019 年の直接融資案件の 2 度目の修正を全会一致で承認したことを発表した。本件は 4 年間中断していた。

TotalEnergies 社は、2025 年 3 月 26 日、2021 年夏頃にカボデルガド地方アフンギ半島でモザンビーク防衛・警備部隊が行ったことを 2024 年報道機関により指摘された人権侵害の疑惑について検事総長が、刑事捜査が開始されたことを確認した 3 月 4 日の発表を歓迎する、と述べた。

アブダビ ADNOC 社傘下の投資会社 WRG は、2025 年 3 月 28 日、モザンビーク Rovuma 盆地第 4 鉱区における Galp 社の 10%持分について、2024 年 5 月に発表していた買い取りを完了したことを発表した。この買い取りには、既に稼働している Coral South Floating LNG (FLNG)、計画中の Coral North FLNG、Rovuma LNG 陸上開発プロジェクトが含まれる。Coral South FLNG は LNG 年間 350 万トンの生産容量を持つ。Coral North FLNG は FID (最終投資決定) 目前で、沖合で追加 LNG 年間 350 万トンを生産する。両沖合プロジェクトは Eni が主導している。陸上 Rovuma LNG フェーズ 1 プロジェクトは ExxonMobil が主導し、見込まれる年間 1800 万トンの LNG 生産容量のカーボンインテンシティを削減するための革新的なモジュラー電動推進設計に基づき、2025 年中に FEED (基本設計) フェーズを完了見込みである。

[欧州・周辺地域]

欧州委員会は、2025 年 3 月 5 日、各国ガス貯蔵を 11 月 1 日までに 90%満杯とする義務

を 2 年間延長することを提案した。「EU 各国が、この夏の貯蔵設備再充填に向け対策を決める際、現在の市場環境を勘案し柔軟性を織り込み、最適な購入条件で夏季を通じて貯蔵設備を充填できるようにすることをお勧めする」として、調整を認めている。

欧州委員会は、2025 年 3 月 4 日、AggregateEU メカニズムを通じての共同ガス購入調整の新規中期マッチング手続きを 12 日より開始することを発表した。買主は 2025 年 7 月から 2030 年 10 月の 5 年間の需要を表明できる。参加希望買主・売主は 3 月 10 日まで PRISMA プラットフォームで登録可能。過去のマッチング手続きでは買主・売主は LNG 引き渡しの EU 内希望基地を示すことができた。今回は FOB(本船渡し) 希望も表明することができる。

欧州のガス体エネルギー業界団体 Eurogas は、2025 年 3 月 24 日、世界の再生可能ガス供給チェーンにおける 55 組織とともに、全面的な認知を阻んでいる障壁に対応することを欧州委員会に求めた。

Shell 社は、2025 年 3 月 25 日、LNG 販売量を 2030 年まで年率 4% -5% 増加、上流・統合ガスビジネス合計の生産量を年率 1% 増加、カーボン原単位を下げつつ液体生産量は日量 140 万バレルを維持することを発表した。

アイルランド政府は、2025 年 3 月 4 日、政府主導での戦略ガス緊急リザーブ推進を承認した。FSRU(浮体貯蔵・気化設備) 形式で、政府に代行してシステム操業企業 Gas Networks Ireland (GNI) が所有することとなる。

オランダ Gasunie 社は、2025 年 3 月 13 日、Petrogas Transportation 社と北海海底の Petrogas パイプラインをグリーン水素輸送に再利用する方法を検討する計画であることを発表した。この調査は、沖合水素プロジェクト Demo 1 のためにパイプライン再利用・転用の実現性を検討することに焦点を置く。同プロジェクトは、気候政策・グリーン成長省が開始した北海でグリーン水素を生産し北海運河地域に陸揚げする 20 - 50 MW 電解装置設備を建設する実証プロジェクトである。

Titan Clean Fuels 社は、2025 年 3 月 17 日、商船三井 (MOL) と、後者の自動車運搬船向けに LNG、バイオ LNG(液化バイオメタン) バンカリングを初めて実施したことを発表した。同 16 日(日)、Titan 社の Alice Cosulich LNG バンカリング船舶が、500 トンのバイオ LNG、400 トンの在来型 LNG を、自動車運搬船 Celeste Ace に Zeebrugge 港湾の国際自動車運搬 (ICO) 基地にて積み込んだ。

ドイツ ライプチヒの Bundesverwaltungsgericht(連邦行政審) は、2025 年 3 月 27 日、リューネブルクの通商監督部門による 2023 年 11 月 1 日付のシュターデのエルベ川下流部でのタンク 2 基を含む陸上型 LNG 基地 (Hanseatic Energy Hub) 建設・操業承認は有効との判断を下した。2043 年 12 月 31 日まで有効とするこの承認について 2024 年 3 月 NGO BUND が提起した訴訟を却下した。

TotalEnergies 社、ドイツ RWE 社は、2025 年 3 月 12 日、RWE が年間 30,000 トンのグリーン水素をドイツ Leuna 精製設備に、2030 年から 15 年間供給する契約を発表した。

ドイツ BASF 社は、2025 年 3 月 17 日、Ludwigshafen で最大のイオン交換膜 (プロトン交換膜) (PEM) 電解装置が稼働開始したことを発表した。容量 54 MW、1 時間当たり 1 メトリクトンの水素を供給できるとしている。

Equinor、Shell、TotalEnergies は、2025 年 3 月 27 日、Northern Lights 開発フェーズ 2 を推進する FID (最終投資決定) を発表した。この第 2 フェーズは、同プロジェクトの CO₂ 輸送・貯蔵容量を、年間 150 万トンから、2028 年から年間 500 万トン以上に増加する。

イタリア OLT Offshore LNG Toscana 社は、2025 年 3 月 14 日、FSRU Toscana が有効稼働寿命延長の結果、2044 年末まで操業する予定を発表した。2024 年、同設備が特別メンテナンスのためシップヤードにあった際、OLT は有効稼働寿命延長を目的とした一連の作業も実施し、RINA (イタリア海事機関) は同基地有効稼働寿命の 20 年間延長証書を発行した 2044 年までの操業性・信頼性を確認した。

イタリア Snam 社は、2025 年 2 月 28 日、FSRU (浮体貯蔵・気化設備) BW Singapore が、Ravenna 沖 8 km の旧 Petra 沖合プラットフォームで繫留完了したことを発表した。過去数日間、3 月引き渡しのコミッショニング用最初のカーゴ供給者選定のため、入札が実施されている。

イタリア Snam 社は、2025 年 3 月 3 日、子会社 Stogit を通じて Edison Stoccaggio 株式の 100% を Edison 社から買い取り完了したことを発表した。Snam の総貯蔵容量は 18 bcm に増加する。

2025 年 3 月 4 日付 "Liste des points prévus à l'ordre du jour des prochaines réunions de la Commission" によると、欧州委員会は従来 2025 年 3 月 26 日に予定していたロシア産エネルギー輸入終焉に向けてのロードマップ発表計画を、抹消した。

EU 首脳陣が 2025 年 3 月 6 日に特別会合を行った欧州評議会は、ガス通過輸送の問題に関して、スロバキアが提起した検討事項を勘案して、実現可能なソリューションに向けて検討することを、欧州委員会、スロバキア、ウクライナに求めた。

ポーランド ORLEN 社、ウクライナ Naftogaz 社は、2025 年 3 月 7 日、ウクライナ向け天然ガス供給における協力諸条件に合意したことを発表した。協力の覚書の一環として、両社は 1 億 m³ のガス供給契約も締結した。リトアニア Klaipėda 基地に引き渡される LNG カーゴより調達される。

ロシア Gazprom «Газпром» 社は、2025 年 3 月 3 日、Power of Siberia «Силе Сибири» パイプラインを通じて中国へのガス供給が過去最高を記録したと述べた。

[南米]

香港 CK Hutchison Holdings 社は、2025 年 3 月 4 日、BlackRock-TiL 連合 (BlackRock Inc., Global Infrastructure Partners, Terminal Investment Limited) と CK Hutchison が、パナマのバルボア、クリストバル港湾を運営する Panama Ports 社における HPH

(Hutchison Port Holdings) が持つ 90%株式、23 ヶ国の 43 港湾・199 棧橋に上る関係企業群における CK Hutchison 持分 80%を、BlackRock-TiL Consortium 側が買い取ることに原則合意したことを発表した。

パナマ運河当局は、日量 100 万バレル輸送容量の、米国から日本への輸送のための LPG パイプライン建設構想を検討している。同運河当局は、パナマ経由のガス輸送を最優先事項としている。

Golar LNG 社の 2025 年 2 月 27 日付情報によると、Golar は 2024 年 7 月、アルゼンチンでの FLNG 配備に公式合意、同 10 月 FLNG Hilli の 20 年間傭船の通知を受けた。SESA (Southern Energy S.A.) プロジェクトに、2024 年 11 月 Pampa Energia 社が 20%出資参加、Harbour Energy が同 12 月 15%、YPF が 2025 年 2 月 15%参加を決めた。Pan American Energy (PAE) 社は 40%を維持、Golar は 10%出資する。SESA は同 FLNG 向けアルゼンチン産天然ガス調達、FLNG Hilli 傭船・操業、LNG 販売を担当する。FLNG Hilli は 2026 年 7 月、現在のカメルーン沖傭船完了後、改修を行う。アルゼンチンでの操業は 2027 年開始見込み。

bp Trinidad and Tobago 社は、2025 年 3 月 27 日、Ginger ガス開発の推進を決定し、Frangipani ガス探査井の成功を発表した。Ginger は bpTT にとって 4 件目の海底ぼろプロジェクトとなり、海底生産井 4 本、bpTT 既存 Mahogany B プラットフォームへの結び込む海底ツリーを含むこととなる。同プロジェクトからのガス生産開始は 2027 年に見込まれる。Frangipani 探査井掘削は、同じ地質構造内に重層型のガス資源層を特定した。この発見の推進のオプションは現在検討中である。bpTT は両案件について 100%持分を有している。

Excelerate Energy 社は、2025 年 3 月 27 日、New Fortress Energy (NFE) 社と、Excelerate が NFE のジャマイカにおけるビジネスを買い取る契約を締結したことを発表した。Excelerate は、Montego Bay LNG 基地、Old Harbour LNG 基地、Clarendon 熱電併給 (CHP) コージェネレーション設備の資産・操業を買い取る。

[グローバル]

Drewry Maritime Research 社は、2025 年 3 月 3 日、LNG 輸送船舶の一部が従来見通しよりも遥かに早くスクラップされる見込み、と述べた。

お問い合わせ: report@tky.ieej.or.jp